

【2021年度スローガン】

博 愛 と 至 誠

～思いやりから広がる人との調和～

【はじめに】

日本の青年会議所の歴史のはじまりは1949年に遡り、公益社団法人日本青年会議所の先駆けとして東京青年会議所が設立されました。「新日本の再建は我々青年の仕事である。」その創始の精神が山梨の地にも波及し、1973年12月、我らの山梨青年会議所が誕生しました。当時青年であった先輩方が集まり、自己啓発・修練を行い、培われた力を用いて試行錯誤しながら、「ひとづくり」「まちづくり」「教育・福祉」「経済」「文化」「環境」など、あらゆる分野において、奉仕活動を続けてこられました。「修練」「奉仕」「友情」の三信条の下、代々の志を脈々と受け継ぎ、情熱を持ち真摯に活動を続けてきた本会議所は、来年には設立50年を迎え、半世紀の歴史を刻もうとしています。

戦後の復興を遂げ、奇跡と呼ばれた高度経済成長を成し遂げた我が国が、今から10年前には東日本大震災という国難を乗り越え、震災後と呼ばれる時代を歩きました。現在（2020年）は、新型コロナウイルスを起因とするパンデミックの影響による危機の中にあり、人々はあらゆる尊厳を脅かされています。山梨市もwithコロナに突入して半年以上が経ち、本来の姿からの変容を余儀なくされ、混沌とした雰囲気が蔓延しています。恐怖からゼロリスクを求めなかなか身動きがとれない市民、各々の危機認識や価値観のギャップによる摩擦、感染者やその周囲への誹謗中傷や差別、高まる情報拡散力の中でインフォデミックという言葉も登場しました。人々は正解に辿り着けずに迷い、街は活気を失い、社会・経済活動は混迷を深めています。個人の生き方（自由）と感染拡大防止（社会防衛）を調和させるのは容易ではなく、命題となっています。このような現状において、まず、私たちができることは、温かい博愛の精神で隣人に接することです。地域から非難や批判を遠ざけ、広い心で、誠心誠意、他者を思いやる輪を広げてゆかなければなりません。未来を担う子どもたちにおいては、互いに排斥することなく分け隔てない愛情をもつことや、誠意を尽くすことを善としながら、育ち合っほしいと切実に願います。長きにわたるソーシャルディスタンス・ステイホームは、人と人との繋がりがいかに尊いものであるかを痛感する機会にもなりました。人同士が対面したり触れ合ったりすることでしか伝わらない生の表情や声や仕草や温もりという「あたりまえ」を失ったところで、よりそれを愛おしむ感覚が強まったのではないのでしょうか。活気あふれる明るい社会を取り戻し築いていくためには、地域が人と人との温かな関係性で満ち溢れていることが必要です。情熱をもって、人と人との豊かな繋がりが育まれるような活動に尽力し、夢と希望に溢れる明るい未来を築いていきたいと考えます。

本会議所も、過去から容易に正解を導き出すことができない事態が頻発する中、この半年以上

の間、メンバーの英知を結集し、安全性を確保しながら社会貢献ができる方法を思案し、活動を続けてきました。先を見据えた俯瞰的な視野と意識改革が求められる転換期の今、私たちは青年として凛然たる信念を持って、知恵を寄せ合い、歩みを進めていきたいと思えます。会員同士が、お互いを尊重し合い、親愛の気持ちを大切に、共に自己研鑽を積みたいと考えます。そして、自ら兼ね備えたスキルを活用し、新たな価値観を創出しながら、社会に貢献し、地域の良循環の核のひとつになりたいと考えます。

【活動方針】

青少年育成委員会

青少年育成事業は本会議所において最も歴史のある事業です。山梨市の未来を共に創り上げていく子どもたちの、夢や希望を豊かに育む機会を大切にしたいと考えます。地域の子どもたちが、挑戦し成長することの楽しさや喜びを感じられる機会を作り、次世代の健全育成に寄与する事業を行います。

まちづくり委員会

山梨市の恵まれた自然環境や、これまで築かれてきた地域の長所に感謝し、誠実に後世に受け継いでいきたいと考えます。コロナ復興の局面で危機と共生しながらも、人と人との出会いや繋がりを大切に、地域の再活性化につながる事業を開催します。

拡大・交流チーム

会員同士の交流活動や拡大活動を行い、壮快な活動が持続できる組織を作ります。拡大活動で会員数を維持する必要があるものの、量的観点から会員数を追いかけることなく、メンバーひとりひとりの個性や力が発揮され、良質な活動が実現できる環境を整えます。

総務室

本会の基盤として、理事会や総会などの設営を担うと共に、各委員会・チームに対して円滑な活動ができるように支援を行います。また、広報活動を通して、地域の皆様に本会の存在や活動の意義を幅広くお伝えします。

【結びに】

今、人々は必死で新しいスタンダードを獲得しています。リモート化推進のため、5Gへの投資が加速してインフラ整備も進み、以前より様々な年代の人が関心を持つようになりました。

「密回避」というワードもお馴染みとなり、乳幼児を含め老若男女問わず習慣化されました。環境保全の重要性も見直され、我々日本人の公衆衛生意識のレベルも高評価されています。このような地域集団としての長所にも誠実に向き合い、地域を再活性化するための事業に活かしながら、大切に受け継いでいきたいと痛感しています。安全性や慎重さを守りながら、新しいことに挑戦します。危機と共生する時代の倫理を問いながら、地域から信頼される良質な事業を行い、明るい豊かな社会の創造に寄与していきます。